

西之表市市制施行50周年記念

鉄砲伝来

今よみがえる

種子島

全国火縄銃大会

2008

8月24日(日)

午前9時～午後3時

その他の催し

- 鉄砲隊パレード
- 「烽火」<sup>のろし</sup>の実証

離島体験滞在交流促進事業

主催 西之表市市制施行50周年記念委員会

後援 国土交通省・鹿児島県・中種子町・南種子町・NHK鹿児島放送局・MBC南日本放送・KTS鹿児島テレビ・KKB鹿児島放送・KYT鹿児島読売テレビ・南日本新聞社



# 全国から22団体の鉄砲隊が集結



西之表市市制施行50周年記念

# 鉄砲伝来 今よみがえる種子島



## プログラム



ごあいさつ

西之表市長 長野 力

西之表市の市制施行50周年を記念して、ここに全国からの鉄砲隊の皆様の参加を得て、「鉄砲伝来 今よみがえる 種子島」が開会されますことを大変うれしく思っております。

今回の大会には、全国から20を超える鉄砲隊が参加します。

鉄砲伝来の地で全国からの参加を得て、歴史に大きな足跡を残した火縄銃の銃声が響き渡ることは大変有意義なことであると考えます。近世の扉はここ種子島からの銃声で開かれました。火縄銃の誕生には、鉄の生産は元より、火薬の製法など幾多の難問を解決し、当時の技術の粋が集約されています。参加される鉄砲隊の皆様も、聴衆の皆様方も、その意義を思いながらご覧いただければと思います。

また、種子島は、自然に恵まれた人情豊かな島です。全国から参加いただいた皆様も鉄砲伝来の史実の背景にある島の風土を感じていただければと考えます。

全国火縄銃大会のあとには、烽火の実証が行われ鉄砲隊のパレードも行われます。烽火の実証では、屋久島と鉄砲を伝えた南蛮船漂着の地である門倉岬から西之表市の八坂神社まで烽火を伝達し、それを合図に南蛮パレードが出発します。地元の皆様には、烽火や全国から集まった鉄砲隊の威容をご覧いただきながら、先人の残した偉業を再確認する機会にさせていただければと思います。

最後に、事業に協力いただいた関係団体の皆様にご挨拶申し上げます。



ごあいさつ

「鉄砲伝来今よみがえる種子島」実行委員会  
会長 杉 喜志盛

全国からの鉄砲隊の皆様の参加をいただき、ここに、「鉄砲伝来 今よみがえる 種子島」(全国火縄銃大会、烽火の実証、鉄砲隊パレード)が鉄砲伝来の地種子島で開会されますことを大変うれしく思っております。

種子島に火縄銃が伝わった1543年より、465年たった2008年、全国に伝播した火縄銃に縁をもつ20を超える団体がこの種子島(西之表市)に集結しました。

鉄砲が縁となり、文化や歴史、風土が違うたくさんの地域の方々が参加いただきましたことは、大会を運営するものとして大変よろこばしく、大いに意義があることだと考えます。

先人が残してくれた歴史や文化を誇りに思うと共に、これらの財産を後世に残していく責任を感じており、そのことの意味を大会に参加した多くの方々と共有できたならと思います。

全国の鉄砲隊の皆様には、本当によくおいでいただきました。鉄砲伝来の地で、伝来の歴史や風土を感じていただきながら、こころおきなく演武をしていただき、魂のこもった未来につながる銃声をこの空と海、そして大地に響かせていただきたいと思います。

地元の皆様にも是非、大会の意義を感じていただき、大きな声援をおくっていただければ幸いです。

最後に、おいでくださった鉄砲隊の皆様を心から歓迎しますとともに、事業を支えてくださった多くの関係者に感謝申し上げます。



## イベント スケジュール

8月24日(日)

### ■ 全国火縄銃大会

9:00～15:00

オープニングセレモニー 【9:00～9:15】

午前の部 【9:30～12:30】

午後の部 【13:00～15:00】

※午前・午後の部開始前に代表による一斉試射を行います。

※会場内では、特産品の販売コーナー、屋台もあります。

### ■ のろし「烽火」の実証

14:30～16:00

火縄銃伝来当時の伝達手段である「のろし」の実証を行います。屋久島と鉄砲を伝えた南蛮船漂着の地である門倉岬から西之表市の八坂神社までのろしを伝達し、それを合図に南蛮パレードが出発します。

### ■ 鉄砲隊パレード

15:30～17:30

各鉄砲隊による雄壮なパレードが市街地を練り歩き、その中で火縄銃の試射を披露します。

### ■ 演芸大会

17:30～21:00

### ■ 花火大会

21:00～21:30

## シンポジウム 8月23日(土)

13:00～16:20

第1部 パネルディスカッション 【13:10～14:50】

第2部 歴史講演会 【15:20～16:20】

## 全国火縄銃大会 演武予定時刻

- 9:00～ オープニング  
代表者演武
- 9:30～ 種子島火縄銃南部鉄砲隊 (鹿児島県)
- 9:40～ 米沢藩古式砲術保存会 (山形県)
- 9:50～ 相馬中村藩古式砲術 (福島県)
- 10:10～ 川越藩火縄銃鉄砲隊保存会 (埼玉県)
- 10:20～ 中島流砲術千葉城鉄砲隊 (千葉県)
- 10:30～ 森重流砲術研究会 (東京都)
- 10:50～ 駿府古式砲術研究会 (静岡県)
- 11:00～ 彦根鉄砲隊 (滋賀県)
- 11:10～ 日野筒鉄砲研究会 (滋賀県)
- 11:30～ 岩国藩鉄砲隊保存会 (山口県)
- 11:40～ 信州真田鉄砲隊 (長野県)
- 11:50～ 松本城鉄砲隊 (長野県)
- 12:10～ 葦北鉄砲隊 (熊本県)
- 12:20～ 黒田藩砲術陽流抱え大筒保存会 (福岡県)
- 12:50～ 代表者演武
- 13:00～ 種子島火縄銃保存会 (鹿児島県)
- 13:10～ 根来史研究会根来鉄砲隊 (和歌山県)
- 13:20～ 堺火縄銃保存会 (大阪府)
- 13:40～ 国友鉄砲研究会 (滋賀県)
- 13:50～ 愛知県古銃研究会 (愛知県)
- 14:00～ 長篠・設楽原鉄砲隊 (愛知県)
- 14:20～ 備州岡山城鉄砲隊 (岡山県)
- 14:30～ 秋月藩砲術林流抱え大筒保存会 (福岡県)



西之表市市制施行50周年記念

# 鉄砲伝来 今よみがえる種子島



## PROFILE

### 参加鉄砲隊プロフィール

(演武順)

- 種子島火縄銃南部鉄砲隊
- 米沢藩古式砲術保存会
- 相馬中村藩古式砲術
- 川越藩火縄銃鉄砲隊保存会
- 中島流砲術千葉城鉄砲隊
- 森重流砲術研究会
- 駿府古式砲術研究会
- 彦根鉄砲隊
- 日野筒鉄砲研究会
- 岩国藩鉄砲隊保存会
- 信州真田鉄砲隊
- 松本城鉄砲隊
- 葦北鉄砲隊
- 黒田藩砲術陽流抱え大筒保存会
- 種子島火縄銃保存会
- 根来史研究会根来鉄砲隊
- 堺火縄銃保存会
- 国友鉄砲研究会
- 愛知県古銃研究会
- 長篠・設楽原鉄砲隊
- 備州岡山城鉄砲隊
- 秋月藩砲術林流抱え大筒保存会



## 種子島火縄銃南部鉄砲隊

鹿児島県



### 【参加メンバー】

|        |       |
|--------|-------|
| 坂口 正芳  | 上妻 博穂 |
| 小川 正光  | 日高 智洋 |
| 大脇 進   | 松原 大輔 |
| 日高 澄夫  | 園田 隆  |
| 砂坂 英明  | 立石 慎也 |
| 羽生 義仁  |       |
| 日高 広太郎 |       |

### 【プロフィール】

西暦1543年(天文12年旧暦8月25日)種子島最南端の門倉岬に、ポルトガル人が漂着し、鉄砲(火縄銃)を伝えました。鉄砲伝来の地、南種子町には、ロケット基地があり、観光地としても注目を集めております。

この歴史的な文化遺産を活かすべく、昭和63年4月に火縄銃保存会が結成され、恒例のたねがしまロケットマラソン大会や町ロケット祭を始めとする行事や大型クルーズ船が本町島間港に入港したとき、修学旅行などの歴史研究や研修の場所などで、古式に則り火縄銃の流儀保存に努めています。(年間12～13回程度)

## 米沢藩古式砲術保存会

山形県



### 【参加メンバー】

|        |
|--------|
| 宮坂 直樹  |
| 吉田 信夫  |
| 町田 忠   |
| 松田 真一郎 |
| 佐藤 清一  |

### 【プロフィール】

上杉家と鉄砲の係わりは、藩祖謙信公が春日山に居城していたときに遡ります。当初上杉家に入った流派は岸和田流であり、影勝公上洛の際には鉄砲組を編成しています。慶長6年会津120万石から米沢30万石に減封されてからも鉄砲は「戦用第一の利器」として製造と砲術錬磨に力を注ぎました。種子島流の丸田九左衛門盛次や稲富流の大熊伝兵衛を抱え、代々鉄砲頭として努めています。又、鷹山公の時代に入り森重流を招いています。他に小野里流、關流、霞流などの流派も取り入れています。

明治38年尚武要鑑会を結成し火縄銃の演武を上杉神社に奉納。昭和30年に尚武要鑑会を再興し、集団演武の際、宮坂善助翁が中心となり、稲富流を主に構成し、米沢藩稲富流鉄砲隊としました。昭和54年から現在の米沢藩古式砲術保存会として活動しています。

大筒、中筒を用いているので重量感があり、音も大きく米沢の雷筒といわれています。

## 相馬中村藩古式砲術

福島県



### 【参加メンバー】

|        |
|--------|
| 鈴木 光一  |
| 亀岩 義将  |
| 佐々木 仟  |
| 井戸川 孝則 |
| 佐藤 達雄  |
| 佐藤 弘道  |
| 一條 正典  |

### 【プロフィール】

奥州相馬中村藩の關流砲術は、奥州相馬家19代忠胤公が、承応元年、上総国久留里藩土屋家より養子に迎えられた際、土屋家の指南役で關流の流祖の關八左衛門之信の協力を得て伝来しました。その後、關家は常陸国土浦藩土屋家に移りましたが、相馬中村藩は代々の關宗家の指導を受け優秀な門人を輩出しました。

廃藩後、關流砲術は相馬から姿を消しましたが、平成5年11月、あるテレビ番組で、鉄砲伝来450年特集番組の放映が縁となり、旧藩時代の伝統文化護持を図る我々「相馬外天会」と、茨城県土浦市の關流砲術11代宗家關正信先生との親交が開始されました。翌年の相馬野馬追祭から關先生御一門による砲術の公開演武が実施され、平成10年には相馬外天会会員の門弟による独立が認められ現在に至っています。

相馬中村藩は、御当地薩摩藩と同様、鎌倉以来の歴史を有する古い藩であり、我々は伝統ある相馬の武士道を重んじ、砲術の修行に励んでおります。

## 川越藩火縄銃鉄砲隊保存会

埼玉県



### 【参加メンバー】

|          |          |
|----------|----------|
| 寺田 図書助勝廣 | 寺田 蔵人廣志  |
| 小野 澤雅楽康晴 | 笠原 民部泰雄  |
| 櫻谷 弾正彰   | 加藤 備中祝久  |
| 山口 豊後昇   | 帯津 兵衛永太郎 |
| 金子 兵庫秀男  | 武者 参河利樹  |
| 坂田 丹波年男  | 杉浦 主水洋   |
| 飯塚 正夫    | 高橋 章司    |
| 長谷部 越中正道 | 森岡 外記健二  |

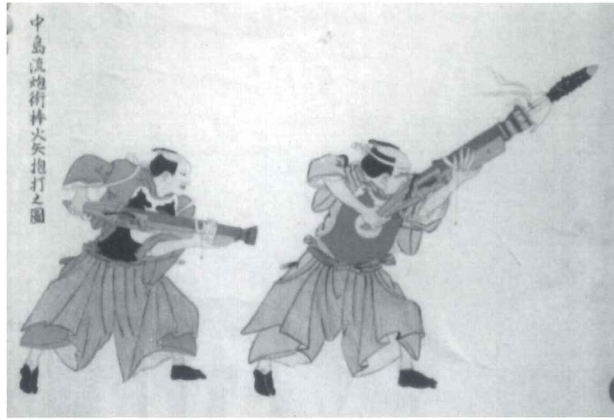
### 【プロフィール】

川越藩火縄銃鉄砲隊保存会は、江戸時代の甲冑武具及び火縄銃の保存と、歴史的文化的継承である火縄銃鉄砲隊を組織し、甲冑を着用し本陣20名槍組10名鉄砲組20名からなる隊で鉄砲隊だけの演武でなく1つの隊列を作り演武をしています。演武を通じ、日本固有の武道を普及し伝承する事と小江戸川越市に寄与する事を目的として、平成8年3月に創立し現会員数80名火縄銃28丁28名になり、いつでも35名～50名火縄銃10～20丁位で川越市との友好のある各県、市、町、村、博物館、教育関係及び各警察署の交通防犯パレードへの協力を本分としております。



## 中島流砲術千葉城鉄砲隊

千葉県



### 【参加メンバー】

|    |     |
|----|-----|
| 山本 | 恵一  |
| 前田 | 正人  |
| 田中 | 夏穂  |
| 中村 | 忠夫  |
| 斎藤 | 一博  |
| 大山 | 比佐夫 |
| 橋本 | 昌憲  |

### 【プロフィール】

中島流砲術は、千葉市立郷土博物館に所属し、流派の伝承を通じて、古銃の研究と保存に努力しています。

全員が実砲射撃をし、古文書や口伝による技法を取り入れて、射撃練習を行っています。又、年数回の前装銃射撃連盟の大会では、全員が上位入賞しています。

当流派は、大筒による射法を特技としています。

## 森重流砲術研究会

東京都



### 【参加メンバー】

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 島津 | 兼治 | 桑原 | 治子 |
| 大橋 | 利康 | 長塚 | 正晃 |
| 深代 | 和孝 | 山中 | 泰久 |
| 三浦 | 竜一 | 秋山 | 孝志 |
| 佐藤 | 幸則 | 小坂 | 貴子 |
| 加山 | 隆江 | 深山 | 千里 |

### 【プロフィール】

森重流砲術の元祖、沼鞆負都由(かげゆうくによし)は、幼くして三田尻の村上蔵人に村上水軍学を学び、十八才の時に諸国を遊歴して砲術の奥義を極めました。寛政七年(四十才)の時に「合武三嶋舟戦要法」を著述して、「毛利の茂る」の故事から森重姓を名乗りました。若年寄京極周防守は、元祖の死去に際して森重姓の名声を高く評価して、十才の嫡男都光に森重氏への改名を命じました。都光は森重の姓名と流名を賜りましたが、技法は中島流であった事に悩み、二十二才の時に官職を辞して武者修行に旅立ちました。四十余才に至り優雅で芸術的な新しい砲形を創作して、独自の森重流砲術を完成して開基者と成りました。

都光は父の形を「前手前」の二筒条形として残し、基本形を七筒条に集約して「衆発繰替」の団体訓練を可能にしました。初段から五段の「習業形」を基礎訓練形を、自在に銃を扱い慣れる為にして、急放し技法から短筒に至る頬付銃を「二十三ヶ條」の技系を表形と纏めました。大筒・棒火矢筒や受流形を「十ヶ條」を裏形とし、切紙・目録や皆伝の多彩な砲形と薬法を伝え、近代的な銃陳法の軍事訓練を完成しました。

会長七代森重民造の死去により名誉顧問川越重昌先生は、新たな会の発展の為に尽力を賜り、昭和開基者・安齋実会長より「正しく伝える様に」との御言葉を頂き、森重流砲術研究会の継承を正式に承認されました。当会は失われた砲術技を探求して、武術としての古典砲技の復活と探求に努めています。

## 駿府古式砲術研究会

静岡県



### 【参加メンバー】

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 角替 | 進  | 芦川 | 清司 |
| 吉田 | 良男 | 星野 | 稔  |
| 伊藤 | 久男 | 青木 | 孝  |
| 篠原 | 章吾 | 伊東 | 康一 |
| 斎藤 | 善計 | 芦川 | 正彦 |
| 芦川 | 章雄 | 佐藤 | 幸久 |
| 仲摩 | 佳一 | 望月 | 広昭 |
| 角替 | 崇幸 |    |    |

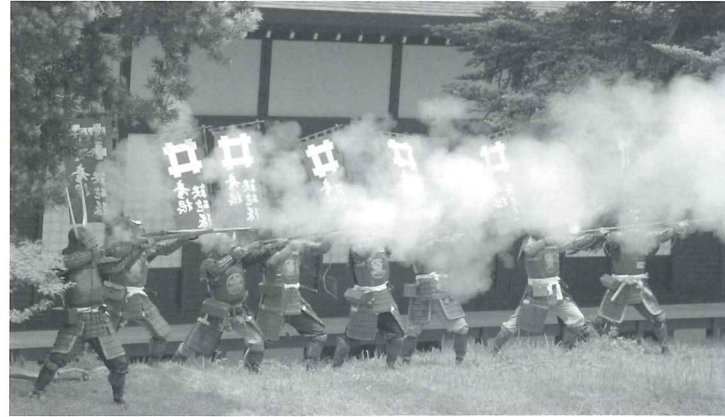
### 【プロフィール】

当研究会は、静岡県庵原郡富士川町の在住者を中心に火縄銃の歴史と郷土の関わりを研究しつつ、古式砲術演武や火縄銃等の展示を行う団体として平成12年4月に発足しました。富士川町は山梨県との県境に近いため、戦国時代には駿河の今川氏・相模の北条氏・甲斐の武田氏等、領地拡大の戦いに巻き込まれ、度々甚大な被害を被っております。

郷土研究グループとして、この様な文献資料を蒐集し研究を行なっていくなかで、当地でも火縄銃を使用した可能性が強くなってきたため、同好の士を募り、駿府古式砲術研究会を発足させ、また、研究会内の演武鉄砲隊は、大御所徳川家康のお膝元駿府(現静岡市)にちなみ、『駿府鉄砲衆』と名づけております。

## 彦根鉄砲隊

滋賀県



### 【参加メンバー】

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 杉本 | 定幸 | 松本 | 隆  |
| 安澤 | 勝  | 成宮 | 輝彦 |
| 川地 | 敏数 | 法村 | 賢仁 |
| 杉原 | 信行 | 中村 | 光裕 |

### 【プロフィール】

慶長5年(1600年)、細川家の家老で鉄砲第一人者といわれていた「稲富一夢(いなとみいちむ)」は、ある事件で主君から命を狙われることとなり、その名人の腕を惜しんで命を助け匿ったのが、当時彦根藩の藩主井伊直政(いいなおまさ)でした。

3年ほど彦根城のもとに隠匿して暮らした稲富一夢は、この間熱心に砲術の研究をし、「稲富流砲術(いなどめりゅうほうじゅつ)」を確立させました。

この当時の砲術を研究開発して現代に伝承しようと、昭和59年、彦根の観光による地域おこしを考えていた商工会議所青年部が古式銃研究会を結成しました。

鎧も旗指物も赤一色に統一した「彦根鉄砲隊」を再現し、「井伊の赤備(あかぞな)え」として徳川四天王の一雄と恐れられていた当時のいでたちで古式砲術の演武を披露しています。



## 日野筒鉄砲研究会

滋賀県



### 【参加メンバー】

|       |       |
|-------|-------|
| 小林 道男 | 吉沢 啓蔵 |
| 服部 久夫 | 服部 和男 |
| 深井 勇  | 小林 敏夫 |
| 堤 正治  | 澤田 健一 |
| 塚本 朋和 | 藤沢 和弘 |
| 小森 富夫 |       |

### 【プロフィール】

「日野筒」は、歴史上の鉄砲伝来より遅れること12年後の1555年より、地元城主である蒲生賢秀公（氏郷の父）の指揮により生産が開始されました。

やがて、その技術は幾多の戦乱の中で鍛え上げられ、注文主の好みに応じた精緻で多様なフルオーダー生産を得意とし、江戸幕末まで、その生産が続けられました。現在でも町内に現存する「玉屋町」「上鍛冶町」「下鍛冶町」などの地名が当時の繁栄を偲ばせます。

日野町は、琵琶湖の東南に位置する近江商人発祥の地のひとつで、その起源は戦国の武将蒲生賢秀氏郷公時代の楽市楽座政策に遡ると言われております。「日野筒鉄砲研究会」はその当時の主要産業として栄えた「日野筒」を後世への継承と町づくりの発展を願って昭和60年11月に発足しました。

## 岩国藩鉄砲隊保存会

山口県



### 【参加メンバー】

|       |        |
|-------|--------|
| 長尾 光之 | 原田 清里  |
| 西川 孝志 | 山岡 良治  |
| 新田 悦子 | 松金 謙至  |
| 井沢 宣彦 | 中島 隆晴  |
| 菅 敏雄  | 森川 勝   |
| 鈴木 昭司 | 中倉 正弘  |
| 清水 準一 | 清水 由利子 |
| 平森 彰三 |        |

### 【プロフィール】

岩国藩鉄砲隊保存会は、山口県東部の周防国岩国藩「鉄砲組」の砲術流儀であった、石田流砲術の伝承と研究に取り組んでいます。

石田流砲術は、岩国藩初代藩主吉川広家公の家臣有坂長次が、豊臣秀吉の砲術師範石田玄斎より石田流を伝授され、以後岩国藩の砲術として、連綿として有坂家に伝えられました。

石田流砲術は、明治以降途絶えていたが、岩国藩石田流鉄砲隊を復興し、これを後世に伝承したいとの機運が高まり、市内の有志の尽力と（財）にしむら博物館（当時）所蔵の火縄銃の提供を受けて、昭和62年、岩国藩鉄砲隊保存会が発足しました。今年創立22年目を迎え、会員38名は初心を胸に、鉄砲道に進んでいます。

## 信州真田鉄砲隊

長野県



### 【参加メンバー】

|        |
|--------|
| 一本鎗 信男 |
| 内海 茂   |
| 若林 正徳  |
| 小林 徳雄  |
| 鳴沢 潔   |
| 堀内 政則  |
| 若林 利治  |

### 【プロフィール】

信州真田鉄砲隊は、戦国武将真田一族発祥の郷である真田町の有志が、「地域おこし」及び「日本の鉄砲技術の歴史と失われつつある古式砲術を後世に伝えて行こう」と、第15代稲富流砲術家澤田平氏の指導を受け平成6年10月に結成しました。

古式銃の研究、真田砲術の研究、古式砲術の演武等を行っており、「真田日本一の兵」と恐れられた、真田一族赤備えの鎧に、六文銭の旗印を背負い全国各地で活躍しています。

## 松本城鉄砲隊

長野県



### 【参加メンバー】

|         |
|---------|
| 福田 雅文   |
| 浜 宗明    |
| 西堀 恒司   |
| 樽沼 五十九郎 |
| 曾根原 健一  |
| 阿部 健示   |

### 【プロフィール】

昭和63年に松本市出身の故赤羽道重氏が、収集した古式銃と関連資料を松本市に寄贈（追加分も合わせ141挺）され、火縄銃による攻防を予想して築城された国宝松本城に、「松本城鉄砲蔵」が開設されました。これを機に平成2年「松本城鉄砲隊」が結成され、現在隊員19名で4月から9月にかけて月一回の定例練習をして、「松本藩御家流砲術」の復元継承に努めています。使用している火縄銃は土筒を中心に大筒もとりいれ、すべて自前の火縄銃を使用し、最近では早撃ちも修行して披露しており、日夜鉄砲道の腕を磨き稽古に励む毎日であります。

装束は鉄砲足軽を原則とし、遠征には稽古着を着用し、使用する火縄銃は10匁クラスの土筒で、それに大筒を加えます。



## 葦北鉄砲隊

熊本県



### 【参加メンバー】

|       |       |
|-------|-------|
| 平江 大八 | 野口 行夫 |
| 河添 光代 | 西村 文美 |
| 久保 和広 | 池田 剛  |
| 成田 周平 | 坂田 和也 |
| 坂本 司  |       |
| 篠原 茂樹 |       |

### 【プロフィール】

葦北鉄砲隊は、寛永年間中頃（1630年代）肥後熊本藩細川氏が葦北地方の防衛体制の一翼を担う軍事的な目的と、加藤家旧勢力の遺臣を権力機構に取り込み統治を安定させるため、帰農していた在地浪人からなる地侍で鉄砲隊を組織したのが始まりであります。寛永15年の天草・島原の乱での原城総攻撃において目覚ましい活躍をみせ、熊本藩士が直接指揮をとる藩直属の鉄砲隊「葦北御郡筒」として、最大規模の時には430名に上る鉄砲隊として、明治3年（1870年）まで存在しておりました。

私たちは、この240年間の長きに渡り葦北を守っていた鉄砲隊の伝統と文化の継承と、歴史の変わり目に大きな影響を与えた火縄銃の技術を現代に体现するべく、火縄銃伝来460年の節目の年、平成15年（2003年）秋に結成されました。

## 黒田藩砲術陽流抱え大筒保存会

福岡県



### 【参加メンバー】

|        |
|--------|
| 尾上 城由江 |
| 小金丸 英俊 |
| 藤川 繁昌  |
| 山川 繁亀  |
| 尾上 由子  |

### 【プロフィール】

「陽流抱え大筒」は、52万3千石を領地していた福岡藩に伝わる砲術です。「陽流」の流名は、藩主黒田如水公が使用していた鎧の紋章が太陽を模った「日輪紋」であったためこの流名がつけられました。「陽流抱え大筒」の呼び名が示すように大筒を砲架に据えるのではなく「晒」により砲身と腕を結びつけ、手で抱えて撃つところに特色があります。鉢巻、胴着、袴、胸皮を身に着ただけで射技を行う、細心な慎重さが要求される武術です。

「大筒」50匁筒、70匁筒、100匁筒、にて射技を行っており、家元を中心に経験を重ねた門人数人より演武を行っております。

「陽流抱え大筒」は、代々尾上家に伝わる砲術であり、15代家元尾上城祐が、昭和37年4月、「福岡県指定無形文化財」に指定されたのを機に保存会を結成し、武技の練磨とともに、陽流の厳正な作法を伝えてきました。

平成19年4月には、大筒、用具一式、砲術関係文書が「福岡市指定有形文化財」に指定されました。

## 種子島火縄銃保存会

鹿児島県



### 【参加メンバー】

|       |       |
|-------|-------|
| 松浦 實  | 杉 喜志盛 |
| 長瀬 五男 | 小倉 達弘 |
| 有馬 寛治 | 福井 清信 |
| 森永 緑  | 日高 義人 |
| 興 陽一郎 | 丸山 一徳 |
| 柿内 英一 |       |

### 【プロフィール】

1543年、種子島の南端・門倉岬に一隻のポルトガル船が漂着しました。今から465年前の出来事で、これが世に言う「鉄砲伝来」です。当時の種子島家島主・時堯公は若干16歳でありましたが、その威力を見抜き、大金二千両で鉄砲二丁（現在のお金で一丁5000万円位）を買い求めたとあります。

この時伝わった火縄銃は、翌年には種子島で国産化され、あっという間に日本の大名達の間にも広まりました。この鉄砲の使用で室町乱は急速に集約され、織田信長、豊臣秀吉による天下統一への歩みを早めたのでした。近世の幕開けとなった鉄砲の持つ意味は計り知れないものがあると思われまます。

海洋文化の接点でもありました種子島のこの歴史的事実、先人達の偉業を後世に残すため、昭和46年、種子島火縄銃同好会が発足し、翌47年には種子島火縄銃保存会として組織改正し、以来、火縄銃の保存、流儀の保存・研究を行ってまいりました。また、火縄銃の持つ縁で多くの鉄砲隊との交流も行っております。

## 根来史研究会 根来鉄砲隊

和歌山県



### 【参加メンバー】

|        |
|--------|
| 上田 和彦  |
| 榎本 旬男  |
| 家原 護   |
| 小河 廣幸  |
| 内藤 高明  |
| 京谷 操   |
| 明渡 美恵子 |

### 【プロフィール】

和歌山県岩出市にある真義真言宗総本山の根来寺は、覚鑿上人によって開かれ、後に学問の寺として繁栄し、中世には堂塔2700、寺領72万石とまで言われた大寺院でありました。寺の繁栄とともに警護のための僧兵の勢力も次第に強くなり、やがて戦国武将から「根来衆」として恐れられる存在になりました。

1543年に種子島に鉄砲が伝来した後、いち早く鉄砲を譲り受け、津田監物によって紀州根来の地にもたらし、それを模倣させたのが本州最初の鉄砲であり、鉄砲を得た僧兵軍団が根来鉄砲隊であります。

平成元年に現代の鉄砲隊が誕生して以来、今年で丁度20周年を迎えます。



## 堺火縄銃保存会

大阪府



### 【参加メンバー】

二宮 要  
 米田 澄雄  
 柏木 作  
 杉江 賢太郎  
 門 博史  
 伊田 英雄  
 小西 英司  
 大前 保夫

### 【プロフィール】

1543年、種子島に滞在中であった堺の貿易商、橋屋又三郎は偶然、鉄砲伝来に遭遇しました。又三郎は、その後長期にわたり種子島に留まり鉄砲の製法を学び、堺に伝えています。

また、堺の鍛冶屋で紀州根来寺で本州第一号の鉄砲を生産した芝辻清衛門は、その後堺に戻り、先の又三郎と協力して堺は一躍日本一の鉄砲生産地となっています。

昭和54年、種子島火縄銃保存会の影響を受けて、堺火縄銃保存会を創設、本格的な活動を行っています。

## 愛知県古銃研究会

愛知県



### 【参加メンバー】

林 利一  
 伊達 真由美  
 川口 静夫  
 大津 範生

### 【プロフィール】

愛知県は、火縄銃の戦いとして知られる「長篠・設楽原の戦い」を始め、「桶狭間の戦い」、「小牧・長久手の戦い」など、歴史を左右するような戦国の合戦が数多く行われました。そのような歴史的な背景のなか、30年前に愛知県古銃研究会を結成以来、郷土の歴史について火縄銃を通じて実証、研究を行ってきました。

私たちは、火縄銃で演武をする際、こうした戦国の戦いで命を落とした人たちへの鎮魂の祈りをこめることも忘れてはなりません。今回も戦国に思いを馳せ、全員が甲冑武者姿で演武を行います。

## 国友鉄砲研究会

滋賀県



### 【参加メンバー】

廣瀬 一實  
 富岡 貞治  
 岡部 正博  
 吉田 二郎  
 田中 龍夫  
 鈴木 健市  
 国友 隆夫

### 【プロフィール】

国友鉄砲は、北近江を統治した戦国大名浅井氏の時代に生産が始まり、織田信長・豊臣秀吉・石田三成によって保護され、徳川家康により大阪夏の陣への銃器の大量注文によって、日本最大級の鉄砲生産地となりました。国友村の最盛期には73軒にのぼる鍛冶師と500人の職人がいたといわれています。国友の鍛冶師たちは、自ら鍛えた火縄銃の出来栄を確認するため、「ためし撃ち」を行いましたが、その作法を復元したのが本会の演武です。その作法の真髄は、江戸後期の著名な鍛冶師・国友一貫齋が記した「能當一流目録」に著されており、鉄砲製作には精神の統一が必要なこと、鉄砲鍛冶師たるものは砲術を知る必要があると記されています。この一貫齋の教えを、鍛冶師の「ためし撃ち」の作法に重ねて編み出したのが、本会が行う「能當流砲術」であります。

## 長篠・設楽原鉄砲隊

愛知県



### 【参加メンバー】

小林 芳春  
 菅谷 哲也  
 今泉 義一  
 湯浅 大司  
 伴 和年  
 梶村 昌義

### 【プロフィール】

天正3年5月(1575年・433年前)、織田・徳川連合軍と武田軍の戦いで多量の火縄銃を使用し、戦術を変えた日本三大合戦の一つ『長篠・設楽原の戦い』の激戦地・愛知県新城市に、愛知県古銃研究会のご指導のもと、平成3年11月10日に結成した鉄砲隊であります。

「供養」「鎮魂」「平和」を祈る事を目的にしており、隊員は『一放・一念火ぶた切り』『一音・一供の浄の音放つ』を胸に演武に参加しております。



## 備州岡山城鉄砲隊

岡山県



### 【参加メンバー】

|       |            |
|-------|------------|
| 大森 常良 | 長山 寿男      |
| 光畑 哲朗 | 石村 武男      |
| 土肥 明則 | ピース・ダウディング |
| 玉山 真敏 | 高橋 淳       |
| 小池 哲  | 山元 幹雄      |
| 赤澤 和幸 | 植田 和正      |
| 西川 實  | 金石 松夫      |
| 金石 弘志 | 藤本 久男      |
| 難波 増雄 | 小田 満博      |

### 【プロフィール】

岡山城鉄砲隊は、藤岡流古式砲術を継承している火縄銃の砲術隊で、昭和58年岡山城鉄砲隊として結成されました。

古式砲術の披露と古式銃の展示・講演活動も行っています。特徴として全員での馬上筒と軍用筒それに30匁～100匁までの大筒による変化にとんだ演武と流派の伝承を通じて、古式銃の研究と保存に努めています。

現在高梁支部（備中松山藩鉄砲組）も含め31名の隊員で年間18～20回県内外の各地のイベントに出かけ活動しています。

## 秋月藩砲術林流抱え大筒保存会

福岡県



### 【参加メンバー】

|       |
|-------|
| 木下 章一 |
| 瀬尾 直喜 |
| 篠原 俊次 |
| 星野 敏勝 |
| 瀬尾 秀美 |
| 川上 憲司 |
| 西田 茂  |
| 野村 健一 |
| 泉 吉政  |

### 【プロフィール】

林流は秋月藩に伝わる砲術の一流派であります。秋月藩には磯流・高野流・林流・久佐流・河野流・陽流・若松流・板倉流という砲術諸流派があったが、林流以外は明治以降いずれも途絶えてしまいました。

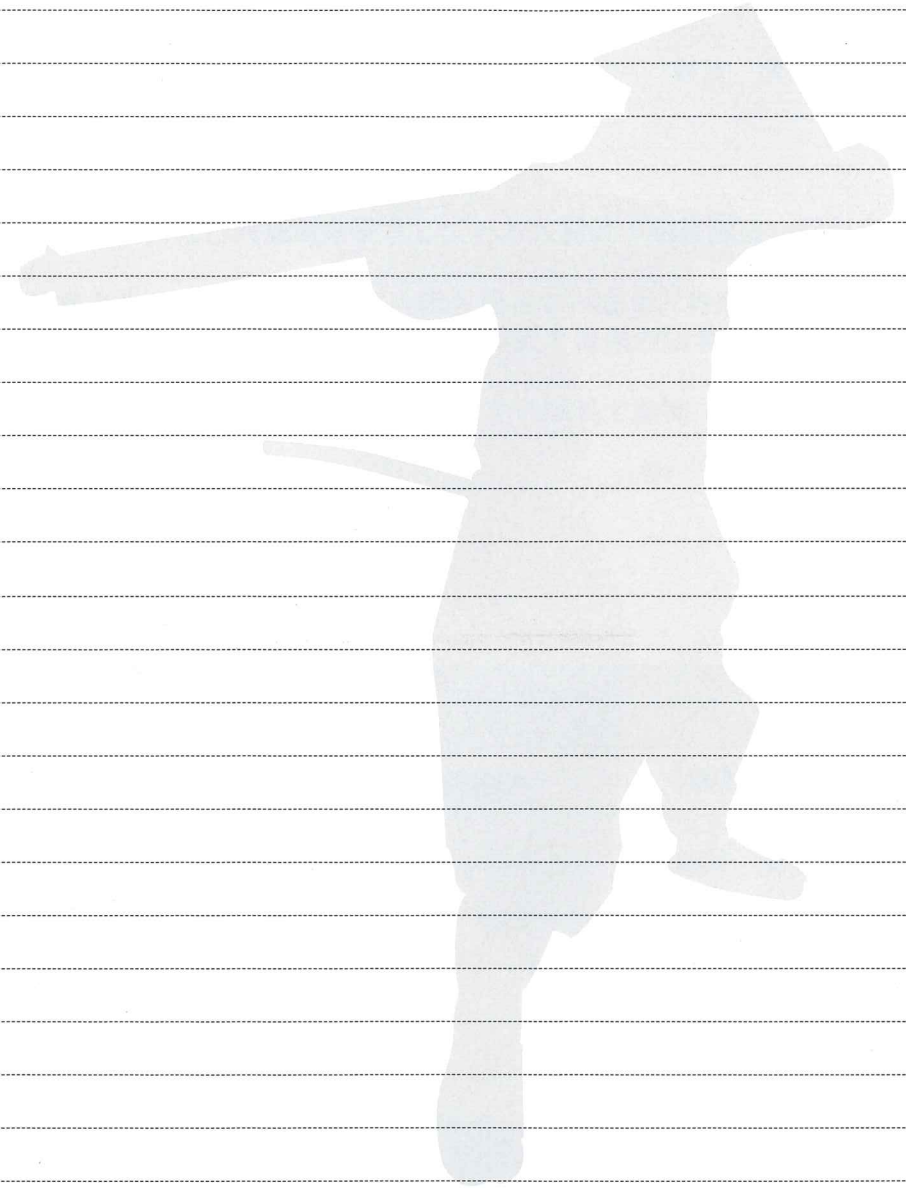
林流抱え大筒は明治9年（1876年）の秋月の乱の際、砲術隊長中野五郎三郎によって嘉穂町大力の縄田家に伝えられました。

昭和46年に伝承者の縄田勇造氏を迎え保存会を結成、その砲術技術を継承し、昭和49年には甘木市の無形文化財に認定され現在に至っています。

大筒は長さ1メートル、重さ30キログラムもあり、100匁玉あるいは棒火矢を使用する大型の火縄銃で、戦場では、大筒の丸弾は敵への威嚇や城楼、門扉の破壊に使用され、棒火矢は城門などを焼払う目的に使用されたといわれています。砲術の型には「村雨」「霞」「浮舟」「稲妻」などがあります。

メモ





HIGASHI

自然と共に未来を創造する

# 東建設工業株式会社

本社

西之表市西之表10230

TEL(0997)22-0219

アスファルトプラント

西之表市西之表桃園

リサイクルプラント

TEL(0997)23-2332

Eメールアドレス

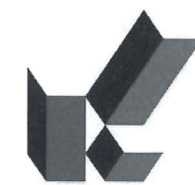
hkk01@coral.ocn.ne.jp

## 種子島石油(株)

西之表市東町49

TEL 22-1345

株式会社



## 九電工

〒891-3101 西之表市西之表15101-5

TEL (0997)22-0177 FAX (0997)22-1110

鹿児島支店 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町1-1  
TEL (099)256-2161

## (有)うすもと金物店

西之表市鴨女町107 TEL 22-0961

## 牧瀬はさみ店

西之表市東町149 TEL 22-0893

## 民宿 豊生

西之表市西之表6733-3  
TEL 23-2925

## たぞえ理容

西之表市東町23  
TEL 22-0191

## 日高クリーニング

西之表市東町117  
TEL 22-0740

スポーツ用品・学生衣料

## Field-K

TEL 22-1246 国上屋  
鴨女町市民体育館隣り



# (有)仲林建設

西之表市西之表10169-5

TEL 23-1418

# (有)折口興業

西之表市現和66

TEL 25-0775

FAX 25-0599

# シヤテイ サタ館



種子島店

西之表市西町5 TEL 22-2222

# (名)平和モータース

西之表市西之表14415-11 TEL 22-1171

# 浜上ストアー

西之表市住吉1072 TEL 23-3637

# 南九州酒販(株)

種子島支店

西之表市西之表15602-3 TEL 22-0014

# 種子屋久ツーリスト

種子島航空センター(株)

中種子町野間5137-5 TEL 27-3737

# 南日本新聞 西之表販売所

西之表市西之表9912 TEL 23-3811

# 地産地消の店 愛 徳

西之表市西之表6966 TEL 23-4877

# 西之表市金融クラブ

鹿児島銀行 種子島支店 西之表市東町13 TEL 22-1241

南日本銀行 種子島支店 西之表市西町79 TEL 22-1541

鹿児島相互信用金庫種子島支店 西之表市西町6 TEL 22-1341

# 関東種子島会

種子島実業高等学校同窓会 関東支部

支部長 鮫嶋 純則

東京都目黒区青葉台2-21-9 紫弘ビル2階 TEL 03-5704-8081

# 丸山水産(有)

西之表市西町44 TEL 22-1281

# (株)大 登

代表取締役 原崎 登

東京都あきる野市野辺640-5 TEL 042-532-3911

# (株)エコロン

鹿児島市川上町2721-87 TEL 099-243-5400

# (有)アイデア設計

鹿児島市武岡3-5-8 TEL 099-253-4811

# (株)新日本技術コンサルタント

熊毛営業所

西之表市西之表7686-21 TEL 23-0428

# (有)興土木工業

西之表市西之表9820 TEL 23-0198

# 西之表市商工会

西之表市栄町2

TEL 23-1141



# 種子島建設業協同組合

西之表市鴨女町209-1

TEL 22-0935

## 東武通信建設(株)

代表 瀬河

東京都あきる野市草花3768-2 TEL 042-558-4040  
FAX 042-558-4041

## (有)三栄石油商会

西之表市西之表9957

TEL 22-1251

不便! 困った!と思ったら  
ガスのこと・水のこと  
お湯のこと・トイレのこと  
浄化槽のこと・排水のこと

## 有限会社 小倉燃料

TEL 22-1315

よき の やき

## 能野焼 福元陶苑

西之表市住吉上能野 TEL 23-1410

たばこの約60%は税金です。たばこ税は市の大きな財源です。  
たばこは地元で買しましょう。マナーを守っておいしい一服を!!

種子島地区たばこ税連絡協議会 西之表市栄町2  
TEL 22-0527

## (有)吉富酸素商会

TEL 23-1135

## 旅館トッピー荘

TEL 22-0631

## 永園設計(株)

鹿児島市長田町1-16

TEL 099-226-8831

## 南九地質(株)

鹿児島市西千石町4-2

TEL 099-805-2951

## ジブラルタ生命保険(株)

種子島支部

西之表市西町7082

TEL 23-4080

編集・発行 / 「鉄砲伝来 今よみがえる 種子島」  
実行委員会

事務局 / 鹿児島県西之表市役所行政経営課  
TEL (0997) 22-1111



